

地理歴史科（地理総合）学習指導案

令和6(2024)年6月6日6限

2年D組（生徒数：40名）

授業者：

指導教諭：

場所：社会科教室

1. 単元名：結び付きを深める現代世界—グローバル化する世界—

2. 単元観：現代世界では国家を単位として多くの国々が連携・協力し、国際社会を築いている。交通や通信が発達し、観光客が増えたり貿易が拡大したりしたことによって、国際社会におけるヒト・モノ・カネの動きはどのように変化し、身近な地域の様子はどのように変化したのだろうか。また、グローバル化に伴い、貿易や交通、通信、観光など世界の国々を結び付ける要素には変化がみられる。世界の国々は、これらの要素によってどのように結びついているのだろうか。この単元では、国際社会における国家の役割を理解するとともに、位置や分布などに着目しながら、地域間のさまざまな相互関係について考えていく。

3. 指導計画：1. 国家間の結び付き(1時間)

2. 貿易によって結び付く世界(1時間)
3. さまざまな交通網の発達(0.5時間)
4. 世界を結ぶ通信網の発達(0.5時間)
5. 観光のグローバル化(1時間)

※3,4を合わせて1時間で実施。

4. 指導目標：グローバル化により、観光はどのように変化したのかを理解させる。

※授業目標：グローバル化により、観光がどう変化してきたのかを理解しよう

5. 生徒観：2Dの生徒たちは、文系クラスである。まじめな生徒が多く、勉強に対して前向きである。しかし、発問をしても個人で考える場合が多い。そのため、積極的に意見交流をするように促す工夫を行う必要がある。

6. 評価基準

- a) 知識・技能：観光消費に関する特徴をグラフから読み取ることができる。
- b) 思考・判断・表現等：グローバル化により、観光がどのように変化したかを文章にまとめることができる。
- c) 主体的に学習に取り組む態度：積極的に周囲の生徒と意見交流を行うことができる。

7. 資料名：戸井田克己他(2022)高等学校 新地理総合. 帝国書院

帝国書院編集部編(2024)新詳地理資料 COMPLETE 2024. 帝国書院

8. 本時の展開

○または・学習内容 ●発問 ☆生徒の反応の例 ◇発問の解答例

学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価項目
導入分 5 ・前回の復習	前回は、交通網について学習した。航空交通、海上交通、陸上交通にそれぞ		

		<ul style="list-style-type: none"> ・観光がグローバル化していること知る ・授業目標の提示 	<p>この特徴についてまとめた。 観光地(京都)の写真を提示する。</p> <p>●この写真を見て、どんなことが分かるか？</p> <p>☆人がいっぱい、海外の人がいるなど →海外の人が、多くいることに注目して話を進める。</p>	写真が見えやすいように電気を消す。	
目標：グローバル化により、観光がどう変化してきたのかを理解しよう					
展開	23分	<p><観光のグローバル化></p> <p>学習課題：どうして観光をする海外の人が多くなったのだろうか？</p>			
		<ul style="list-style-type: none"> ・観光による移動が活発になる理由 ・活発な地域の特徴 ・観光消費の特徴 ・日本の観光の変化 	<p>余暇時間が増える=生活に余裕ができることで観光を目的とした移動が活発となる。また、観光目的の移動が活発になりやすい地域・国について空欄を埋める。</p> <p>資料集のp.191の図を見て、地域別訪日外国人の円グラフの空欄を埋める。 →アジア：距離的に近い。 アメリカ：先進国間同士。</p> <p>国際観光収支を使って、収入、支出それぞれが多い国について、特徴や具体例をまとめる。</p> <p>2010年代に収入が支出を逆転する。</p> <p>●どうして、2010年代にアジア諸国からの訪日外国人旅行者が増えたのだろうか。</p> <p>☆経済が発展した、ビザが発行された ◇格安航空(LCC)が増加した。さらに、東南アジア諸国に短期観光ビザが免除された。</p>	<p>指示の提示、口頭の両方で伝える。</p> <p>a)</p> <p>個人のち、ペアワーク。 机間巡視。</p> <p>c)</p> <p>ペアワーク。 机間巡視。</p> <p>c)</p>	
	15分	<p><多様化する観光></p> <p>学習課題：どのような観光形態があるのだろうか。</p>			
		<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな観光形態 	<p>従来の観光形態では、自然環境や歴史のある世界遺産を巡る観光、バカンスなどがある。新しい観光であるグリーンツーリズムやエコツーリズムについて、空欄を埋めたり、写真を確認したりして知る。また、適宜資料集も使用して確認する。</p>	具体例を提示するとともに、写真を提示する。	
まとめ	7分	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに記入 ・振り返りシートの回収 	<p>キーワードを挙げ、それらをもとにまとめたり、感想、疑問等を文章にまとめたりする。</p>	記入する項目を前に提示しておく。机間巡視をする。	b)

9. 板書計画

- ・プリント（別紙参照）
- ・パワーポイント

【5. 観光のグローバル化】

目標：グローバル化により、観光がどう変化してきたのかを理解しよう

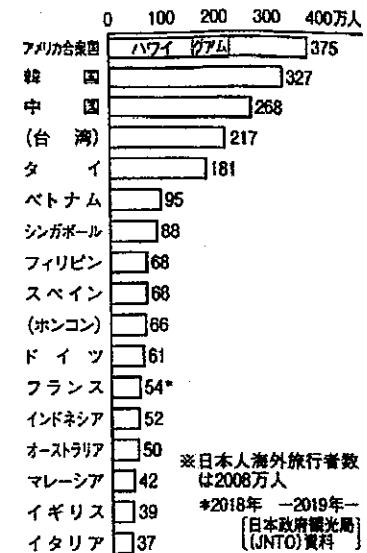
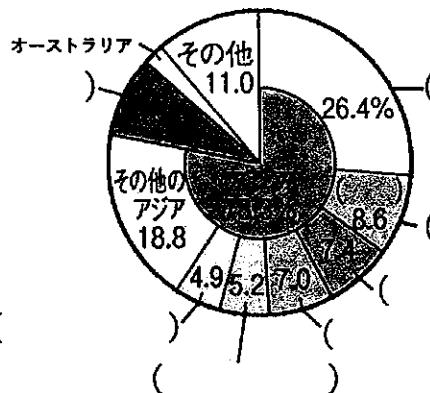
〈観光のグローバル化〉

○観光による移動が活発になる理由

- ・生活水準が向上して、余暇時間が増える→観光目的によるヒトのグローバルな移動が活発化

活発な地域の特徴

- ①(1).
- ②(2).



○観光消費に関する特徴

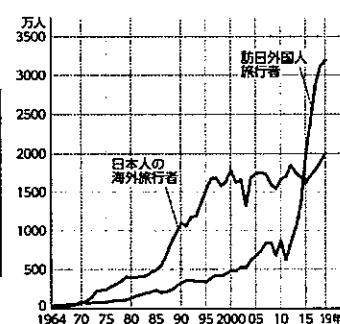
- 国際観光收支…外国人旅行者が国内で行う消費を「収入」、
旅行者が海外で行う消費を「支出」として考えた指標。

日本人旅行者渡航先(2019)

国際観光収入	国際観光支出
Point : 観光産業が盛んかどうか	Point : 働き方や文化の違い
具体例:	具体例:

- 日本：1964年以降 海外旅行の自由化により海外旅行者数の増加 ⇒
2010年代以降 アジア近隣諸国からの外国人旅行者数増加 ⇒

☆2010年代以降にアジア近隣諸国からの外国人旅行者数が増加した理由を考えてみよう



〈多様化する観光〉

○さまざまな観光

- ・(3.) のように、自然景観や歴史のある文化財などをめぐる観光。
- ・バカンス…避寒地や避暑地を訪れる。
- ・(4.) …都市住民が豊かな自然に触れあうことを目的とした観光。
- ・(5.) …持続可能な環境保全への理解を深めるために、自然環境や歴史・文化を体験しながら学ぶ観光。

訪日外国人旅行者数と
日本人の海外旅行者数の

5

観光のグローバル化

学習課題 ➤ グローバル化によって、観光はどのように変化したのだろうか。

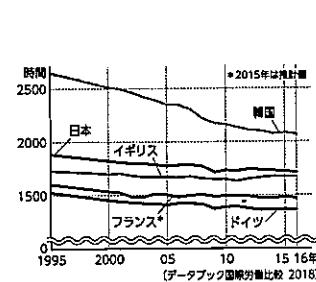
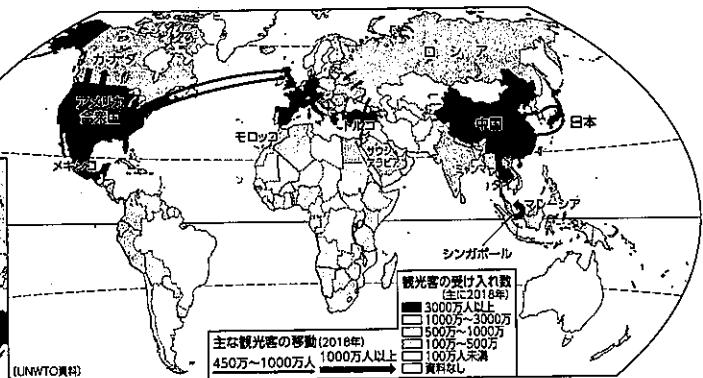


↑① パカンスで海水浴を楽しむ人々(フランス、ニース、7月)

↑② 世界文化遺産に登録された富岡製糸場(群馬県、富岡市) 世界遺産に登録後、観光客が急増している。

↑③ エコツーリズムで観察をする人々(コスタリカ) 豊かな動植物や熱帯林が観光資源になっている。

→④ 各国・地域の観光客の受け入れ数と主な観光客の移動 | 読み解き 観光客の受け入れ数が多い国・地域はどこだろうか。



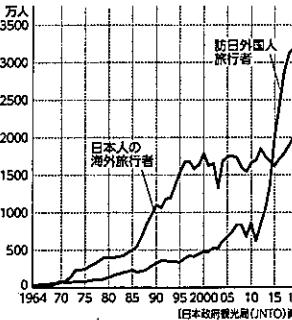
↑⑤ 主な国の年間労働時間の推移 | 読み解き 日本や韓国労働時間とヨーロッパ諸国労働時間を比較しよう。

観光のグローバル化

生活水準が向上し、余暇時間が増えると、観光目的による人のグローバルな移動が活発化する。特に、

日本・中国・韓国、アメリカ合衆国・カナダ・メキシコ、ヨーロッパの国どうしのように、距離的に近く経済的結びつきの強い地域や、経済的にゆとりのある先進国で、観光目的の移動が活発化している(図④)。

世界各国の国際観光収支をみると、観光収入はアメリカ合衆国のはかり、観光産業が盛んなヨーロッパなどの国々で多くなっている(図⑥)。一方で、観光支出は働き方や生活文化の違いを反映している。例えば、労働時間が短く(図⑤)、夏に長期休暇をとるパカンスの習慣があるヨーロッパの国々は(写真①)、観光支出も多い傾向にある。日本では、1964年に海外旅行が自由化され、生活水準も向上したことから、世界各国を訪れる旅行者が増加してきた(図⑥)。そのため、日本の国際観光収支は長



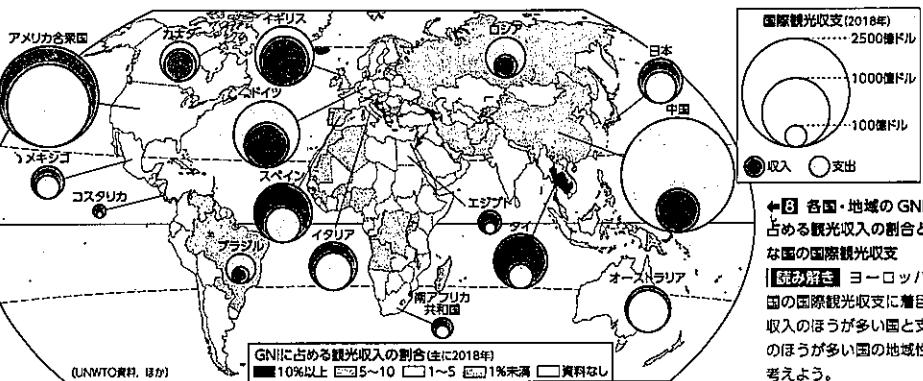
↑⑥ 日本人の海外旅行者数と訪日外国人旅行者数の推移

世界中の日本 増加する東南アジアから日本への旅行者

経済成長が著しい東南アジア諸国では、余暇に使う人が増えた。日本と東南アジアを結ぶ格安航空会社(LCC)の運行本数が増大したのに加え、2013年以降に日本政府がタイやマレーシアなど東南アジアの国々の短期観光ビザを免除したこともあり、日本への旅行者が急増している。なかでもインドネシアやマレーシアから来る旅行者の多くはムスリムである。このため、主要国際空港でイスラームの礼拝室の整備が進められたり、各地の観光案内所でハラールフード(→ p.88)を提供する飲食店の案内が行われたりしている。



→⑦ 観光案内所で案内を受ける東南アジアから来た旅行者(大阪府、2015年)



→⑧ 各国・地域のGNIに占める観光収入の割合と主な国際観光収支

| 読み解き ヨーロッパ諸国国際観光収支に着目し、収入のほうが多い国と支出のほうが多い国との地域性を考えよう。

らく支出が収入を大きく上回っていた。2010年代はアジアの近隣諸国を中心に、日本を訪れる外国人旅行者数が急増して観光収入も増え、観光産業は重要な産業の一つになっている。

多様化する

ユネスコが登録して保護・保存を進める世界遺産の観光

ように、美しい自然景観や歴史を感じる文化財などをめぐる観光や(写真②)、パカンスのように避寒地や避暑地を訪れる観光は、古くから盛んである。最近では、都市の住民が豊かな自然に親しむグリーンツーリズムや、自然のなかで環境について学ぶエコツーリズムなど、新しい観光のスタイルも提案されている。例えば、貴重な動植物が生息する熱帯林が豊富にあるコスタリカは、国土の4分の1を国立公園や自然保護区に指定して、環境保護に取り組む一方で、環境に関する知識を備えたガイドの育成などによってエコツーリズムを展開し、環境保全と観光振興の両立を目指している(写真③)。

①世界遺産 世界遺産条約に基づき世界遺産リストに記載された「最も普遍的な価値」をもつ建造物や遺跡、景観、自然のこと。文化遺産、自然遺産、複合遺産の3種類がある。

②グリーンツーリズム 都市住民が、農村や山村で豊かな自然に親しむことを目的とした観光の形態のこと。都市と農村の交流促進や農村地域の収入増加などの利点がある。

③エコツーリズム 持続可能な環境保全への理解を深めるために、自然環境や歴史・文化を体験しながら学ぶ観光の形態のこと。

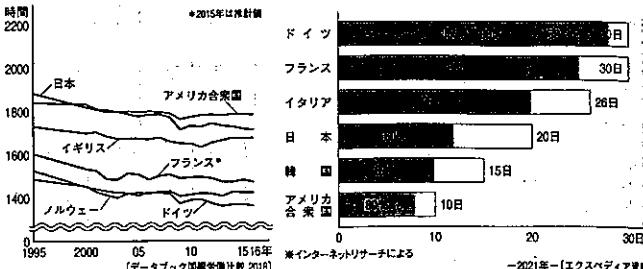
確認 ➤ グリーンツーリズム、エコツーリズムとは何か説明しよう。

深い学び 観光を活性化させる観光資源には、どのようなものがあるのだろうか。

ヨーロッパと日本の余暇の過ごし方には、どのような違いがあるのだろうか。それぞれの特徴を比較してまとめてみよう。→**四四四**

1 労働時間の短縮と余暇の増加 Link p.259 ◀地中海に面したリゾー

日本では、労働生産性(労働の質)の向上や休日数の増加などにより、労働時間の短縮が進み、1990年代後半には、アメリカ合衆国などと同程度の水準にまで短縮された。また、こうした変化と連動するように、日常生活における余暇活動への関心も高まってきた。しかし、日本の有給休暇の取得率をみてみると、ドイツやフランスなどの国々が1か月近くの有給休暇を取得できているのに対し、日本は平均支給日数の数位にあたる12日しか取得できていない。この差の背景には、夏に長期休暇をとる余暇の時間を過ごす「ガラントン」の習慣が根づいている(フランスなどに比べて、日本では長期休暇をとる習慣があまり根づいていない)ということがある。日本では、正月や盆など、特定の休日に余暇活動が集中し、このことが交通機関や宿泊施設に対する一因となっている。



↑①おもな国の年間労働時間の推移

↑②おもな国の有給休暇取得状況

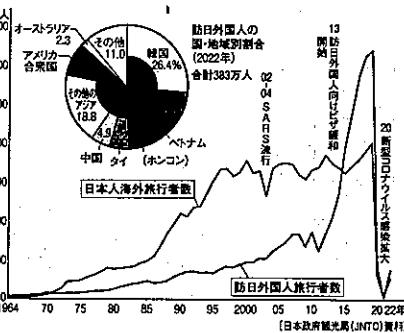
2 観光地の類型



190

3 國際化する日本の観光

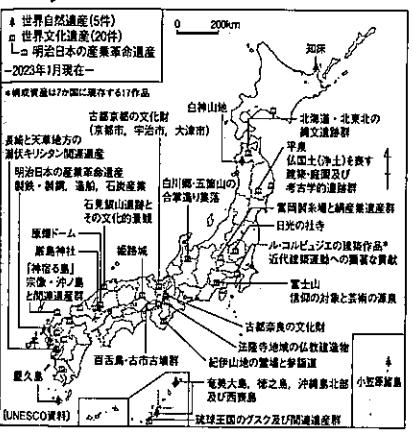
※日本人海外旅行者数は2008年まで
※2018年～2019年～2020年は日本政府観測



↑の日本人海外旅行者数と訪日外国人旅行者数の推移

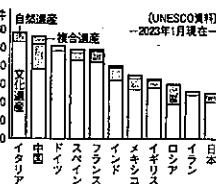
↑の日本人海外旅行者の渡航先

4 世界遺産 Link ➔ p.83 ⑩世界ジオパークの登録地



↑⑬日本の世界遺産

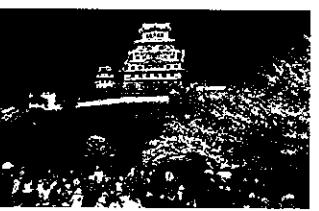
世界遺産条約とは、世界的にみて保存する価値がある自然や建造物などを、人類の遺産として世界の国々で保存しようとする条約で、自然遺産、文化遺産、複合遺産がある。世界遺産に登録された地域は、多くの観光客を集めますが、登録されることにより、かえって自然が破壊されたり、建造物の破損が進んだりするなどの問題も発生している。



↑④おもな国の世界遺産の登録件数



↑の世界自然遺産の白神山地(青森県・秋田県)



↑①世界文化遺産の銀路城(兵庫県)

④ラム イスラーム圏からの観光客の誘致

格航空会社(LCC)の運行増大などを背景として、日本を訪れるムスリムの観光客が急増している。とくに経済成長が著しく中間層が増加している東南アジア諸国連合(ASEAN)からの観光客が多い。ASEANの人口のおよそ半数がムスリムであり、その大半は印度ネイザンマーレーシアの人々である。2013年に日本政府がタイとマレーシアからの定期観光ビザを免除したことでも、この進展を押ししている。

ムスリムの観光客が増加している現状から、全日本空輸(ANA)では、インドネシアなどの東南アジア路線や北アメリカ路線を中心に特別機内食としてハラールフードの提供が行われるようになった。また、成田国際空港などの主要国際空港では、礼拝室の設置とムスリム向けレストランの整備が進められている。自治体における説教の動きも活性化しつつあり、例えば、京都市では英語やアラビア語、マレーシア語などに対応したムスリムの観光客向けウェブページを開設している。ウェブページでは、京都市内からのメッカの方向が明示されているほか、ハラール認証を受けたレストランや礼拝室が整備されたホテルなどが紹介されている。最近では、ムスリムの観光客に対して日本の文化を発信し、日本産の牛丼や果物などの将来的な輸出拡大につなげようという動きもみられる。



↑の桜を楽しむスリムの観光客(京都府)

このガイドは、ヨーロッパの金融活動は最近漸く弱り、最近のレート変動の保護主義的な要素を示す傾向に、日本の金融活動は依然として堅調であるが、金融政策の変更が見られる可能性があることを示す。